（実践報告）

成人看護学演習（慢性期）における学生の学び
―退院指導でロールプレイングを試みて―

堀 美保[1)]　武藤英理[1)]　岩﨑淳子[1)]　小園千草[1)]　水谷裕子[1)]　北村真由美[1)]

Ⅰ．はじめに

新型コロナウィルス感染症下における看護系大学の臨地実習の在り方に関する有識者会議報告書（文部科学省，2021）に，今後の大学における看護学教育への展望について，「新型コロナウィルス感染症の流行によって看護学教育は臨地実習の実施が困難となり，各大学では，様々な代替方法を駆使して教育の質の維持が試みられた．その結果，実習前の学内演習等で準備性を高めてから臨地実習を実施すること」とし，臨地実習の学修効果を高めるための講義，演習，実習を関連付けた工夫が必要であると述べている．

新型コロナウイルス感染症の拡大による影響から，基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱが学内実習，臨地実習における実習時間の短縮がなされた為，十分な臨地実習が行えない状況下にあった学生が成人看護学演習を受講することとなった．このことから，臨地実習を見据えた思考の整理や個別性を意識した関わりができるよう，さらなる授業の工夫が必要となった．

山本ら（2007）が，ロールプレイングは模擬的ではあるとはいえ体験学習であるため，体験を通して得た慢性看護に対する理解は，実習において慢性看護の実践に役立つのではないかと期待できると述べている．また，重富ら（2018）がグループでの振り返り時に，映像視聴による自己の気づきと観察役や患者役からのフィードバックを統合させた自己評価ができるように指導することや，教員を含めた全体振り返り時に，映像を使って状況や状態に合わせた効果的な介入についてのディスカッションを取り入れることも有効と考えられたと述べている．先行研究からも，慢性看護における演習において，ロールプレイングを行うことや場面について，映像記録を用いて振り返り話し合うことは有効と考えられた．

今回，ロールプレイングを導入し，患者指導の実施状況を定点カメラで撮影し，参加者全員で画像を振り返りし，学びを共有することを試みた．演習実施後のロールプレイングの学びの振り返りレポートより得られた学生の学びと今後の課題について報告する．

Ⅱ．科目の概要と到達目標

１．科目の目的と概要

成人期における疾病の治療や援助に伴う看護技術の習得および健康障害によって生じる対象者の反応についてアセスメント能力と問題解決能力を習得することを目的とする．

慢性期の状態にある成人の身体的，心理的，社会的特徴や家族を含めた課題やニーズを理解し，日常生活の課題などについて，紙面上の事例を通して看護過程の展開を実施し，看護過程を通して複雑に絡み合った問題を論理的に解決に導くための方法を学ぶ．

課題解決に必要な情報収集，アセスメントと，看護計画の立案などの看護援助を学ぶ．

講義形式としては，急性期と慢性期の２つに分け同時進行で行こなう．

２．成人看護学（慢性期）到達目標

1）患者情報からアセスメントすることができる

2）退院後の生活を見据えた指導を行うことができる

3）チームで協同し、演習を進めることができる

1）朝日大学保健医療学部看護学科（成人看護学講座）

Ⅲ．成人看護学演習（慢性期）の展開

1．成人看護学演習講義の流れ（表１）

表１　成人看護学演習（慢性期）授業計画書

回数	内　　容
1	成人看護学演習の全体オリエンテーション（慢性期・急性期） 事例配付し次回までにアセスメントを行い看護問題をリストアップする． ＊事例：血糖コントロール不良により入院となった，2 型糖尿病の 50 代の女性
2.3	各自行ってきたアセスメントをもとに、患者像をとらえる。GW ＊学生の問題リストを確認し、看護問題別に再度グループ編成を行う（8G）
4.5	グループで話し合い指導書を作成（表 2） パンフレット・リーフレットの作成
6.7	ロールプレイングによる発表（発表：10 分　　振り返り：15 分） ＊発表グループは，指導項目内容により教員が 4G 選抜する． ＊看護師役は各グループで決める．　家族および患者役は発表直前に教員が指名する． 方法 ①指導場面を iPad を用いて録画 ②振り返り　導入時および指導場面ごとに録画を再生しながら行う． 全体の振り返り（個別性や継続可能などを含め） ③教員からのフィードバック
8	グループ発表（演習での学びについて）

表2 指導書

年　月　日　作成　No. 1

指導項目：　　学籍番号　　氏名

患者氏名	
本人の意向	
指導目的	
指導目標	
指導方法	
場面及び対象 5W1Hで表記	いつ：　どこで：　誰に： どのように：

指導内容（具体的に記述）●自分がどのように説明するのか、セリフ形式で記述する。	指導のねらい、根拠

2．対象者：成人看護学演習を受講した３年次の学生 79 名

3．倫理的配慮

学生には対象者が揃う場で，研究目的，匿名性の厳守，成績への影響が生じないこと，自由意思であることを口頭および書面にて説明した．Moodle による学びの内容について，得られた内容は本学の紀要の投稿以外の目的で使用しないことを説明し，同意を得た．

本稿における利益相反は存在しない．

Ⅳ．結果と考察

成人看護学演習でのロールプレイングによる学びについて述べる．

1．環境や方法について（表３）

「座る位置」「患者の目を見て」「患者さんの表情を見ながら」「適度な間を取る」など記述していた．これらのことからも，患者の生活指導の場面において，看護師の表情や姿勢や態度に着目し観察できていた．座る位置や目線，頷きや復唱を実施して，相手に聴く姿勢を伝えることが重要であることが，全体での視覚映像を振り返りにおいて，共通理解につながり有効的な方法であった．

表３　Moodle における　ロールプレイングの振り返りから　学生の学び（一部抜粋）

環境・方法	・個室へ移動し，プライバシーにも配慮する． ・パンフレットの見せ方や座る位置など工夫すること． ・患者の目を見て，しっかり挨拶からはじめ，声のスピード，大きさやトーンを明るくする，相槌を打つなどで、話を聞いてみようという気持ちになる． ・患者さんの表情を見ながら，不安や疑問に思っていることを聞き，患者さんの生活にあった継続していける提案をしていくことが大切．例えば，車を遠くに停めて，歩く距離を増やすなど． ・「そうですよね」と話すことで，しっかり自分の話しを聞いていてくれていると安心感を与えることができる． ・値やジェスチャーなど分かりやすく明確な表現で伝えること． ・適度に「何かわからないことはないですか」思いや理解度を把握できることと患者さんの発言の機会になる． ・適度な間をとって，患者さんが話しやすい環境を作ることが大切． ・対面ではなくＬ字型の方が圧迫感なく話せる．

2．姿勢や態度について（表４）

「常に患者さんを尊重する態度」「労いの言葉をかけること」「～してみませんかと提案しながら，患者さんに選択肢を与える声かけ」「生活スタイルに合わせた方法を提案すると無理なく続けることができる」など記述してあり，各々が自分自身のこと捉え意識しながら演習に臨んでいたことが理解できる．また，指導における説明技法についてより具体的な方法を学ぶ機会となった．重富ら（2018）は，映像を通して振り返ることは効果的な看護コミュニケーションにとって必要な対人的技能を高める上で意義あるものであると述べているように，ロールプレイングを１回毎に振り返り，気づきを確認し４テイクと段階を得てロールプレイングを重ねることで，患者像のイメージに繋がり，多角的な視点から学びが深まったと評価できる．

表４　Moodle における　ロールプレイングの振り返りから　学生の学び（一部抜粋）

態度・姿勢	・最初はワンクッションおいてから指導の話しをするべきだと思った．常に患者さんを尊重する態度が必要だと思った． ・「何分程度かかりますがお時間よろしいでしょうか」と声をかけることが大切． ・入院前、入院中にできていたことを労うことが大切． ・できていることを褒めてもらえると，認めてもらえていると感じ，もっと頑張ろうと思える． ・労いの言葉をかけることが大切だと学んだ．そうすることで，意欲の向上につなげることができる． ・コミュニケーション１つで患者さんのやる気を引き出すことができる． ・看護師も一緒に頑張っていくと伝えることで，安心感を与えることで前向きに臨めると知った． ・患者の反応を見ながら，語りを引き出すような会話ができるとよい． ・質問に対して曖昧な返事をするのではなく，調べてから返事することを伝えることが大切． ・「～してみませんか」提案しながら，患者さんに選択肢を与える声かけになり，押し付けにならない． ・「どうなりたいか」という思いを聞いた後に，それに合った指導を提案することで，一緒に考えていく姿勢も伝えられる． ・生活スタイルに合わせた方法を提案すると無理なく続けることができる． ・「体重計はあるのか」いつどのタイミングで測れるのか，具体的に伝えることで実践につながると思った．

３．成人看護学演習の学びについて今後どのように活かして活きたいか（表５）

「実際の指導場面についてイメージしやすい」「コミュニケーションの中で患者の発言を掘り下げたり，今の思いを傾聴したりすることで新たな情報を得ることができる」「思いを取り入れることで患者主体のケアに繋がること」「意欲を引き出すための工夫や継続的できるよう支援する」「患者と一緒に考え，実践に繋げる」「その人のペースに合わせて段階的に介入する」と記述している．このことからも，患者が主体であることを理解し，その人の個別性を意識した患者への継続的な支援の大切さが学べたと考える．

表５　Moodle における　演習での学び（一部抜粋）

今後どのように活かしていこうと考えていますか	・ロールプレイングにより，実際の指導場面についてイメージしやすいと感じた． ・ロールプレイングを通して，コミュニケーションの中で患者の発言を掘り下げたり，今の思いを傾聴したりすることで新たな情報を得ることができ，それを今後の計画や指導に取り入れることで患者主体のケアにつながると理解できた． ・患者さんの食事や運動指導するときは，その人が何を求めているのかどんな情報が欲しいのか，また，意欲を引き出すための工夫やそれを継続的に行うためにはなにをすればいいのかということを考えて行っていきたい． ・慢性期看護は継続的な支援が必要であるため，その人の強みや生活を捉えどのように介入していくか適切に焦点を当ててアセスメントしていくことが必要だと考えた． ・ 患者と一緒に考え，目標に向かってどう実践していくか考えることが大切だと思った． ・自分たちのグループの中で話し合ったことだけでなく，他のグループから自分達では気づかなかったことや，感じなかったことまで知ることができて，より今後の学びに活かせる発表になった． ・指導の際には，患者さんに共感すること，目線を合わせてコミュニケーションをとることで，患者さん自身の安心に繋がることや，一緒に頑張っていくことを伝えることで，「1 人で頑張らなくてもいいんだ」と安心に繋がるため，患者さんが継続して治療が受けることができるような指導が大切だと感じた．声かけやコミュニケーション１つ１つに注意していきたい． ・一気に生活習慣を改善するのではなく，その人のペースに合わせて段階的に介入することが大切であり，パンフレットも書き込み式や目標設定を自分で行うなど参加型にする工夫などを学んだ． ・指導する上では，患者の状態が改善傾向に繋がるよう，根拠のある指導に責任をもって行えるようにしたいと思いました． ・指導の際には，患者にマーカーを引いてもらうなど患者参加型で説明を行う方法もあると知りました． ・医療者にとっての当たり前は，患者にとって当たり前の事では無いため，言葉の選択に気をつけ，患者自身が理解し，対策の継続ができるよう指導していくことが大切だと感じました．

Ⅵ.　今後の課題

本演習では，慢性期にある対象者の退院指導に必要な看護を修得するため，糖尿病事例患者の退院指導に向けて，患者指導の実施状況を定点カメラで撮影し，参加者全員で画像を振り返りし，学びを共有することの実践報告となった．今後も臨床実習に継続，活かせれるよう，演習内容について検討していく必要がある．

Ⅶ.　文献

重富　勇，堂下陽子（2018）．精神看護学演習のロールプレイ体験による学習効果と教育上の課題 ―視聴覚教材による振り返りに焦点をあてた検討―．長崎県立大学看護栄養学部紀要，16，11-17．

文部科学省（2021）．新型コロナウイルス感染症下における看護系大学の臨地実習の在り方に関する有識者会議　報告書 看護系大学における臨地実習の教育の質の維持・向上について（看護学教育の在り方に関する検討会）．

山本裕子ら（2007）．臨地実習前のロールプレイングによる慢性看護学演習の効果の検討．大阪府立大学看護学部紀要，13（1），43-50